

国際 国内 政治・経済 環境 気候変動 都市開発 建設 上下水道 物流 テクノロジー 通信 先端技術 オピニオン

熱波、干ばつ、大雨、世界中で異常気象

近年、世界中で異常気象が起きている。「観測史上初」の猛暑や数十年に一度のレベルの豪雨、そして熱波と少雨による干ばつ。原因は人間の活動によって作りだされる地球温暖化が大いに関係している。人間が活動することによって地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出量が増え、異常気象となって現れているのだ。異常気象の中に「極端現象」と呼ばれる気象現象が世界各地で起きており、人類がこれまで経験したことのない熱波や高温、大雨、干ばつが発生している。集中豪雨によって大規模な洪水被害が出ている一方で、雨が降らず干ばつが発生している地域もあり、近年は両極端な現象が発生し人間に牙を剥いている。

観測史上初高温が続いた欧州

今年7月上旬から観測史上初といわれた高温が続いた。スペイン南部のコルドバでは7月中旬に最高気温43.6℃、フランス南部のトゥールーズでは39.4℃を観測し、イギリス東部のコニングスビーでは40.3℃を記録した。スペイン、ポルトガル、フランスでは大規模な山火事が発生しており、WMOは9月7日に公表した報告書で「より強い熱波

で大気の質が悪化し、数億人の体に影響を及ぼすだろう」と指摘している。欧州各国に高温をもたらした要因は偏西風の蛇行だ。ヨーロッパ西部付近では背の高い高気圧に覆われたことに加え、南からの暖かい空気の流入や強い日差しの影響で、地表付近の気温が上昇したとみられる。地球温暖化によって、地球の平均気温は産業革命前から、すでに1℃上昇しているといわれるが、気温が1℃上がると、水蒸気量が7%

ほど増え、同時に雨量も7%増えるという。異常気象はもともとランダムな現象であるため、熱波、大雨、干ばつなどの異常気象が数年に一度、また地域によって異常気象の現象が異なるともいわれている。全てが人間の活動によって、もたらされている。人間が経験していなかったような気象災害は、人間自らが作り上げているようなものだ。

